

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773200563		
法人名	有限会社秋桜		
事業所名	グループホーム虹の家		
所在地	福島県双葉郡浪江町大字立野字根渡183		
自己評価作成日	平成21年7月25日	評価結果市町村受理日	平成20年10月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福祉ネットワーク		
所在地	福島県いわき市錦町竹の花20番地		
訪問調査日	平成21年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お年寄り一人一人の個性とそのらしさを尊重し、お年寄りの立場に立った支援を行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立者3人の同志による理念は、当初より不変であり、自ら地域に馴染親しむ姿勢は信頼関係の上に成り立ち地元根ざしている。近年多種多様な施設が増えつつある中、グループホームの真髄を拝見したようである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々確認できる場所に理念を掲示し、職員は理念の意味を理解して実践に向けて取り組んでいる。	管理者手作りの理念を日々確認できる場所に掲示することで共有を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	隣組に入り、地区の一員として活動や行事等に参加している。又両隣から野菜等を頂いたり、お茶を飲みに来て頂けるなどの交流がある。	自治会加入により施設のアピールをすることで地域の理解を得ている。近隣からは季節折々の野菜を頂きお返しにイベント食のお赤飯やおはぎなどを提供するなど還元も心得ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町や他の機関から講師の依頼があった時には、事業所の力を活かし、認知症の理解や介護方法について講師の活動を行ってきた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	課題が生じた場合は会議の議題として話し合い、メンバーの意見を参考にて、サービスの向上に活かしている。	会議を通じて地域の声を反映し、横つなぎの支援に心掛けている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡協議会等から市町村より先に知り得る情報等もあるので、必要に応じてお互いに情報を交換しながら、協力関係を築いている	日頃から情報交換をすることで協力関係を築けるよう努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する課題が生じた場合は、職員間で話し合い、拘束をしない取り組みを行なっている。	拘束の弊害を認識することで身体拘束及びスピーチロックをしない取り組み姿勢を実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者に関しては当然の事であり、通所利用の方についても、家族に配慮しながら関係機関と連絡をとりながら、見過ごされることがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する利用者があるため、学ぶ機会はあるが活用の支援はない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要な項目を重点的に説明の上契約している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接外部に表せる機会は設けていないが、利用者や家族の要望や苦情等は、運営推進会議の中で公表し、運営に反映させている。	会議での意見や要望を反映させた支援作りを心掛けている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	職員の増員等に関しても、職員の率直な意見を聞いて運営に活かしている。	現場の職員の意見を重視し傾聴することで働く意欲の向上に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年齢や経験・資格等を考えた給与を設定し、勤務の交替等についても本人の希望をかなえて働き易い環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合った研修の参加や、計画的に参加する研修も考慮しながら、資格取得等も勧めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、研修の参加や職員の交流研修を行ない、グループホーム全体の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人への聞き取りをすると同時に、日常生活の様子から、本人の不安や要望を推測し、把握するようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの経緯や不安なことを聞き取り、又、これからの支援に対する家族の意向を充分伺うようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援に対する家族の意向を知ると共に、本人はどんな生活を望んでいるのかを、チームとして把握に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り本人の能力に応じた手伝いをお願いし、台所の手伝いでは職員が利用者から学ぶ事も多く見られている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員では対応が難しい状況になった場合、負担にならない程度に家族に来ていただいたりすることもあり、本人にとってどのような支援が良いか、家族と率直に話し合っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同級会への出席や知人宅への訪問を送迎で支援したり、入居前に利用していた理美容院の利用を支援している。	同地区出身者のPTA時代の知り合いや顔馴染みによる会話が弾んでいる。また、行きつけの理美容室や知人宅訪問などの送迎も支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、利用者間の関係も考慮した手伝いをお願いしたり、手伝いはできる利用者に集中しないよう、個人の力量を考えて多くの利用者が手伝い、支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所となったケースでは、家族が遠く離れていたため、ホームの職員が面会に行き洗濯物を交換したり、病状についても、病院と家族の中継的な役割を果たした事もあったので、今後も状況によっては続ける考えである		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	自分らしく生活できるよう、聞き取り調査を行ったり、一人ひとりがどんな生活を望んでいるのかを、生活の様子から把握し、支援できるような話し合いを持っている。	農業経験者から知恵をいただいてホーム周辺の畑で野菜作りをするなど個々の経験を活かした支援作りに心掛けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との会話の中から、何を大切にして生活してきたのかを知り、今後どのような生活を望んでいるのか把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のペースを大切にして、本人のやってきたことは何か、今できることは何かを探り、能力を大切に支援している。車椅子の方にも茶碗拭きや食事準備等の手伝いをしてもらっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の介護に対する意向を確認し「どんな生活を望んでいるのか」を大切にしながら計画を作成している。	本人や家族の意見・意向を聴取し、その人らしさを尊重した介護計画を実践している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、介護計画に沿って個別に毎日記入し、日々の介護や計画の見直しに生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態を考えた時に、他のサービスの利用が適切と思われた場合は、全体会議や日々の介護の中で話し合い、家族にも事業所の意向を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の敬老会や植栽活動に参加したり、ホームの行事である家族交流会にも地域の方を招待して、交流を図れるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も安心した医療との関係が持続できるように入居前の医療機関を受診できるよう支援している	入居前のかかりつけ医で継続治療が受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の採用はないが、経験豊富な職員と準看護師と相談しながら、適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院時等において病院関係者との関係作りを行っており、入院した場合は定期的な情報交換に努め、早期退院を医師にお願いしている、医師もホームの意向を理解してくれている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向をアンケート形式で聞き取りを行い、全職員で共有している。	初期段階より意向を聞き取り書類にまとめ、随時の流動的变化に対して臨機応変な体制を整えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作っているほか、介護経験の少ない職員は応急手当や初期対応の研修に参加している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導のマニュアルを作成し、年3回夜間を想定した訓練を日中に行っている、内1回は消防署員の立会いを得て指導を受けている。	年3回の避難訓練のうちの1回は、消防署員立会い指導を受け、夜間想定訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した言葉かけに努め、トイレや入浴、着替えの介助では尊厳を保った対応を職員間で確認し合いながら、支援している。	人生暦を尊重し、プライバシー確保に努めた声かけをしていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示のできない方については、職員の観察する力を養い、ホームでの暮らしの中から本人の意志や希望を推測し、確認しながら支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物にいきたいとの突然の要求にも対応したり、読書をして過ごしたい方には本棚コーナーを設けるなど、日常生活のあらゆる場面で、一人ひとりが自分のペースで過ごせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服や化粧品は本人が選べるよう外出して頂いたり、理美容院は本人の希望により、入居前に利用していた馴染みの店を利用できるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	食事の準備や後片付けなどは利用者と職員が一緒に行っている、食事の時は利用者の間に職員が入り、一緒に楽しく食事ができるよう支援している。	職員は意欲的にボランティア主催の料理教室に参加し、季節野菜をふんだんに使ったメニューを取り入れ、準備から後片付けまで利用者を交えて支援していた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定で栄養の摂取状況を把握し、食べる量や水分摂取量の少ない利用者については、充分確保できるよう声かけしており、水分摂取量の少ない方については、記録して一日の水分摂取量が摂れるよう支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア表を作成し、個人に応じた口腔ケアを毎食後実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用者については、排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導する事により失敗が少なくなるような支援を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、熟知することで後退しない介護を実践している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等食物繊維の多い食物の使用に努め、乳製品も毎日使用している、又、毎日散歩にも出かけており、適度な運動にも心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の回数は本人の希望で毎日か一日おきに入浴している、又、その日の入浴順番もなく、声かけで入りたい方から入浴するなど、個々の意志を尊重した支援を行っている。	施設独特の曜日決めや順番決めをせず、個々を尊重した自由な時間配分を柔軟性に取り入れている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休みたい方には部屋で休んでもらい、夜も見たいテレビ番組で寝る時間が遅くなる方もいるなど、個人のペースで休めるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの服薬内容を、薬局から出される調剤表を確認して把握している、医師の指示どりに服薬できるよう支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝いをする方、縫い物が得意な方など、力量に合った役割りが持てるよう支援している。又、歌が好きの方には歌の本を用意したり、読書が好きの方には、本を用意して楽しめるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的ではないが、時々ドライブに出かけたり町の行事等の参加や見学等の支援を行なっている。又、お墓参りや理髪等で外出した時には、買物や食事をするなどの個別的支持も行なっている。	個々の希望に沿った、多種多様な外出支援を行うことで気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理できる方には、多額にならない程度のお金を持ってもらい、外出時や移動販売等で買物ができるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方は見られないが、年一回の年賀状の支援や、電話については本人の希望があった時にかけてもらったり、訴えない利用者については職員が家族に連絡した時に話をしてもらっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には絵画や行事の写真を飾り、いたるところに季節の花や鉢物を置いて、安らげる雰囲気を作っている。	自宅の延長を思わせる落ち着いたリビングや居室には、季節感を大切に花々や装飾品が心地よく配置されている。	リビングの壁に貼付された利用者全員のお誕生会写真だけが施設の印象を与えていた。個々の居室に飾ったり、ホーム便りでご家族に送付程度でよいのではないかと。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外に少人数で話ができる場所が2箇所用意しており、気の合った者同士や、家族の面会の時に利用されている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	馴染みの家具等を持ち込んでもらい、部屋は自由に使ってもらっている、中には位牌を持ち込んで暮らせるよう支援している。	お位牌を持ち込み仏壇を配置したり、馴染んだ家具を使用したりとその人らしさを尊重した居室配慮がされていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止のため部屋に手すりや滑り止めマットを付けたり、玄関にも手すりを付けて安全に行動できるよう支援している。		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名	虹の家
記入担当者名	佐山岩雄

評価結果に対する事業所の意見

ありません。

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。